

【 . 指標以外の観点からの評価】

取組	指標以外の観点からの評価
	・ラグビーワールドカップ2019の機運醸成を図るイベントを One Rugby, One Oita 大作戦として実施し、大会開催を県内外に広く周知することができた。特に、2年前イベント(来場者数:15,000人)やジャパンラグビー トップリーグ(来場者数:18,279人)では多くの県民が来場し、大会開催に向けた機運の醸成が図られた。
	・海外代表チーム等のキャンプ誘致(5回)の結果、東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプの協定を締結した(2件)。また、参加チームから受入体制に好印象を得るとともに、トップレベルの選手との交流を通じ、スポーツ振興を図ることができた。
	・プロスポーツチームと学校との交流事業の訪問先から「プロの選手との交流は子どもにとっても貴重な体験であり、夢を持つきっかけにもなる」といった感想が寄せられるなど、スポーツに親しむ機運の醸成が図られた。(56回 4,019名参加)

【 . 施策を構成する主要事業】

取組	事業名(29年度事業)	事業コスト (千円)	事務事業評価		主要な施策の 成果掲載頁
			総合評価	30年度の方向性	
	ラグビーワールドカップ開催準備事業	1,204,956	A	継続・見直し	32
	国際スポーツ大会誘致推進事業	36,298	A	継続・見直し	21
	スポーツ交流地域活力創出事業	25,667	A	継続・見直し	30
	おおいたスポーツ成長産業化モデル事業	31,674	B	継続・見直し	31

【 . 施策に対する意見・提言】

<p>大分県商工会議所連合会知事要望(H29.10)</p> <p>・大会の成功や県内各地に経済効果等を波及させるためにも、行政と民間が一体となり積極的な広報・プロモーション活動を実施するなど、国内外における機運醸成に向けた取組が必要。</p>	
--	--

【 . 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<p>・H31年度のラグビーワールドカップ2019大分開催に向け、メディア広報やシティドレッシングなどの大会機運醸成の取組を拡充するとともに、大会を支えるボランティアの募集・育成、交通輸送実施計画やファンゾーン運営計画等の各種計画策定など、大会準備の取組を具体的かつ着実に実施する。</p> <p>・2020年東京オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際スポーツ大会の事前キャンプ等の誘致のため、県内市町村や競技団体等と連携し、関係を築いた各国との事前キャンプ受入合意を目指した重点的な誘致活動を実施する。</p> <p>・より多くの県民のスポーツに親しむ機運を醸成するため、プロスポーツチームによる小学校や総合型地域スポーツクラブ、医療施設等への訪問など、プロスポーツチームとの交流事業を実施する。</p>